



国民の森林・国有林



着任挨拶する洲上局長

8月7日付けで、歴史と伝統のある九州森林管理局に局長として着任いたしました洲上和之です。  
私は、大学卒業後九州を出て、32年振りに初めてこの九州の地で仕事をやらせて頂くということになりました。  
こういう機会を与えて頂き、皆さんとともに仕事が出来ることが大変うれしく思うとともに、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

8月7日付けで川端省三前局長が林野庁国有林野部長に転任し、後任に洲上和之前林野庁経営企画課長が局長に就任、8月10日、局大会議室において着任挨拶を行いました。

## 評価される国有林を九州森林管理局から 洲上和之局長が着任挨拶

### 九州森林管理局は トップランナー

特に九州森林管理局は、林野庁の中でも常にトップを走っていると言われており、歴代の局長から「九州から日本の林業を再生させていく」という取り組みが進められていると聞いており、私も経営企画課長その前の業務課長時代から、九州森林管理局がトップランナーとして取り組まれている姿を良く存じ上げているところです。

### 一般会計化3年目の 国有林の役割

今年一般会計化後3年目に当たり、一般会計化された国有林がこれからどういう道を歩むのか、非常に大事な時期となっています。

新生国有林は、公益的機能の一層の推進や、林業再生への貢献が大きな課題になっていますが、最も大事なことは、一般会

### 評価される国有林を 作りあげていく

地域の中でしっかりと評価される国有林、九州森林管理局というのにはやはりすごいなど、また森林・林業・木材産業の分野に関しては、森林管理局や森林管理署に訪ねて行ったらわかるんだと言われる様な組織、また、地域を引っ張っていきける組織として、我が局の職員がしっかりと頑張っていくことが、これから非常に大事になると思っています。

### レベルアップした 九州森林管理局へ

評価される国有林を九州森林管理局から作りあげていくということが大事な事ではないかと思っています。

今回九州森林管理局に参りまして、出来るだけ現場に足を運び、更に私自身もレベルアップしないといけないと思っています。



大会議室において着任挨拶

### 職員の皆さんと共に

皆さんと一緒に、レベルアップした九州森林管理局を作っていく、こういったことが林野庁の中でも、九州森林管理局がまずやらなければならない事ではないかと思っています。

最後になりますが、職員の皆さんがやる気をもってしっかりと仕事出来る環境作りも大事だと思っています。皆さんと一緒に頑張ってしっかりとした職場、組織を作っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



# 現場代理人研修で講師

鹿島・熊本・宮崎の三会場に2500名参加

今年度の治山工事が最盛期となる時期を前に、(一社)熊本林業土木協会主催による治山工事現場代理人等研修会が7月9日の鹿児島会場を皮切りに、7月28日熊本、7月30日宮崎の三会場において、各森林管理署担当職員を含む総勢258人の参加を得て開催されました。

今年度は梅雨期の長雨、梅雨明け後の連日の猛暑と、現場管理・健康管理に苦慮している中ではあります。安全第一に、工事の早期完成に向けて努力することと認識をひとつにした研修会となりました。

今年度は梅雨期の長雨、梅雨明け後の連日の猛暑と、現場管理・健康管理に苦慮している中ではあります。安全第一に、工事の早期完成に向けて努力することと認識をひとつにした研修会となりました。

(担当)川上治山課

この研修会は、治山課、森林整備課が毎年交互に担当し、今年度は治山事業について九州森林管理局川上伸一治山課長ほか担当官が講師となり、治山事業の概要、安全関係、治山工事に係る一般的事項、治山工事標準仕様書及び工事請負契約約款な



川上治山課長による講義

## 大人気の木工教室

【沖縄森林管理署】沖縄県宜野座村の漢那ダム湖畔において、「森と湖に親しむ旬間」の一環として「第22回漢那ダムまつり」が開かれました。

参加した各関係機関が企画したダムや森、水に関するものをはじめ、島ぞうり彫り体験や生涯スポーツ体験など、体験イベントが22種類とバリエーションに富み、暑い日差しの下、多くの参加者で賑わいました。

当署は、親子木工教室(リユ



森林管理署のブース

ウキユウマツの板材を利用したイス作り)をはじめ、森林パネル展、森林クイズを行い、およそ250人の参加者に来ていただきました。親子木工教室は、昼過ぎには終了となる人気ぶりです。親が板を恐る恐る支え、子どもが必死に釘を打ち込む姿が印象的で、中には子どもよりもやる気に満ちたお父さん、おじいさんも見られました。森林パネル展、クイズ大会は、国有林内における当署の主な仕事を紹介するパネル等の中から抜粋してクイズを出題しました。

参加者がパネルにとらめっこしながらクイズに取り組み姿を見ると、国有林の役割や大切さ、森林の魅力に対する理解を深めていただけたようです。森林クイズには、参加賞としてイリオモテヤマネコを紹介するクリア

ファイルを用意しました。また、参加者は、親子共同作業で作り上げたイスやクイズの参加賞を夏の思い出として、持ち帰っていました。

## 森林整備計画を学ぶ

【佐賀森林管理署】佐賀県東部農林事務所管内6市町の林務担当者を対象とした市町村森林整備計画作成研修会が開かれ、当署から森林技術指導官と地域林政調整官が参加しました。

同事務所管内の森林率は38%と県内で最も低く、初めて森林計画作成に携わる担当者がほとんどでしたが、予定していた時間を超過するほど熱心な研修会となり、国、県、市町の林務関係担当者とのより一層の連携を図る良い機会となりました。



図面で熱心に研修をしている様子

## ハリー競争で親睦



ハリーを漕いでいる職員ら

【西表森林生態系保全センター】石垣市で海神に安全を祈願する爬龍船(ハリー)競争大会が行われ、大勢の市民や観光客で賑わいました。

当センターも環境省石垣自然保護官事務所の職員と10人の合同チームを結成し、団体ハリー競争に参加しました。

男女混成チームで練習約1時間という不安が残る中での参加でしたが、参加80チーム中で最下位は免れ各自が安堵の表情でした。

試合後は、反省会を行い、両事務所の親睦も深まりました。



# 刃物の研ぎ方を学ぶ

【長崎森林管理署】当署構内において、対馬の再任用職員2人を講師に腰鉈の研ぎ方講習会を開きました。この講習は、今年度に入り刃物に起因する災害が多く発生しており、安全な作業を行う上で、刃物の点検・手入れが不可欠であることから、全職員を対象に開いたものです。

講習は、次長が作成した木製の研台で、職員の腰鉈を使用して講師の指導を受け、真剣に研ぎ方を学び、各職員は、苦戦しながらも自分の鉈を研ぎ上げ、切れ味を確認していました。



真剣に研ぎ方を学んでいる職員

をしつかり学び、腰鉈を使用する際は安全第一で作業に当たることを認識しました。

## OJTで安全指導

【熊本南部森林管理署】今年四月に発生した当署職員の刃物による公務災害発生を受け、当署の若い職員の刃物使用にあたっての安全作業を確保するためOJTを活用した安全指導を行いました。最初に、刃物の基本的な取扱や構造、現場で使用する際の基本動作及び刃物の研ぎ方について論理的な説明を行い、

熟練者の森林技術員などから効率的で安全な態勢による方法なども伝授されました。次に、刃物を使用した実践演習では、林業で最も災害が多発している伐倒作業の基本的な伐倒方法である「受口」や「追口」の位置、「つるを残す意味」などについて、実際に伐倒作業を行い、基本作業・動作の重要性の認識を深めたところです。本年2回目の若い職員への刃物の取扱などの安全指導となりましたが、引き続き安全確保で、他の作業種の作業・動作を指導して行くとともに、各種法令などに基づく



若手職員を指導している熟練者

作業の手順や基本的な遵守事項についても併せて指導して行くこととしています。



私は関西から田舎暮らしを夢見て鹿児島に移住してきてもう13年になります。

移住してきた当時の鹿児島の印象として、人の温かさや緑の



福田由起子さん

じく、よ  
そ者の私  
には恐い  
ように思  
えました。  
しかし、

# 卒業証書と一緒に机の天板を

冬になると全部枯れて、春になるとまた緑が復活する様子を見て「自然って上手く出来ているな」と思いながら眺められるようになっていました。

私は関西で暮らしていた時、

豊かさなど色々ある中で、蕨の成長の凄まじさもあります。車で走っていると道脇端の木々が薦に飲みこまれるのではないかと思ったり、春から秋にかけての蕨の成長の勢いは凄まじく、よ

勉強した家具作りの技術を生かして、木で小物雑貨を作っています。

それに使う材木をどこで仕入れたらよいか悩んでいた時、偶然出会った人との会話で、今

校に入学する時に机の天板をひとりずつに配り、その天板は学校を卒業するまで各自持つて進級し、卒業の日に卒業証書と一緒に天板を渡す」というアイデアです。(天板は取り外しできる構造にしておきます。)

天板に付けられている傷

や落書きから楽しかったこと、苦しかったことの思い出が蘇り、将来、大人になってからも悩んだ時、苦しい時に立ち直るきっかけになったりするのでないかな？

も忘れられないことがあります。この人も木を使う仕事をされている、それも国産材にこだわった仕事をされていました。その人が自分の夢として話して下さったことですが、「小学

また、使い捨ての文化が広がっている現代社会の中で、物を大切にするという気持ちも学ぶことが出来るのではないかな？さらに、人によっては卒業証書より大切な人生の宝物の一つになるかもしれないな？等と私の中の思いが広がったことを今も覚えています。

木に携わる仕事をしている者として、また国有林モニターの始めてから、なぞさら、皆がもっともっと木を好きになってほしいな、との思いから以前偶然出会った人との思い出の会話を書いてみました。  
(鹿児島県南九州市在住)



# 山の日制定をPR

【大分西部森林管理署】山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日として8月11日が「山の日」に制定され、2016年から第16番目の祝日となります。施行を1年後に控えた8月11日、九州の屋根と呼ばれるくじゅう連山の麓、九重町長者原において、制定に尽力された多数の来賓・関係者を招いてプレイベント「山の日制定記念祭 in 大分・くじゅう」が開かれました。

記念式典では、勇壮な九重樽太鼓、あばれ獅子がオーブニングを飾り、歌手の芹洋子さんがくじゅうを唄った名曲「坊がつる賛歌」披露し、全国から寄せられた山へのメッセージをミス



ミス日本みどりの女神による山のメッセージ



名曲「坊がつる賛歌」披露

日本みどりの女神の佐野加奈さんが読み上げて式典に花を添えました。

式典に続いて、設置した林野庁の展示・体験ブースで森林管理署、大分・大分西部森林管理署が合同でパネル展示、丸太切り体験・虫かご制作やシユロの葉のバッタ作りなどを実施し、



虫かご制作に取り組む親子

レジャーで訪れていた一般の方へ「山の日」の制定や国有林野事業のPRを行いました。なお、来年の施行記念イベントは、長野県上高地で行われることとなっています。

## 山の日プレイベント開催



「国頭サバクイ」踊りの披露

【沖縄森林管理署】沖縄県国頭郡恩納村「沖縄県民の森」において、2016年から施行される「山の日」を記念し、当署を含め約400人が参加して、プレイベントが開かれました。冒頭、琉球王朝時代、首里城の建築用材を国頭村から献納する状況を演じた「国頭サバクイ」の踊りが披露されました。イベントでは、各関係機関が



自然観察会に参加した子供たち

企画した森の散策・観察会、丸太切り体験、コースター作り、火おこし体験など、熱い日差しの下、多くの子供たちで賑わいました。

当署は、森林パネル展と国有林内の主な仕事を紹介するパネル等の中から抜粋した森林クイズを実施しました。参加者がパネルにとらめっこ

しながらクイズに取り組む姿を見ると、森林の役割と重要性や森林の魅力に対する理解を深めていただいたようで、山の恩恵に感謝する一日となりました。

## 民・国連携で森林づくり

【大隅森林管理署】当署では、鹿屋市の全域を対象に民有林と国有林が連携して健全で豊かな

森林（もり）づくりを推進し、森林の持つ多面的機能の持続的発揮を図るとともに、森林の整備・活性化を推進し、地域における林業及び木材産業の再生に資することを目的とする豊かな森林（もり）づくり推進協定を当署、鹿児島県大隅地域振興局、鹿屋市、森林整備センター鹿児島水源林整備事務所、（公社）鹿児島県森林整備公社、大隅森林組合、曾於地区森林組合の7者で締結しました。

今後、推進協議会を開き、民有林と国有林が連携して路網整備や森林の整備を行う森林共同施業団地を設定し施業の集約化を進めるほか、中間土場の設置、持続可能な森林経営の基盤づくり、木材の安定供給などの課題に取り組むこととしています。



調印後に記念撮影の7者



## 平成27年度第1回

# 屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカWGを開催

8月8日及び9日に、今年度第1回目となる屋久島世界遺産地域科学委員会及び科学委員会の作業部会であるヤクシカ・ワーキンググループ会議を屋久島環境文化村センターにおいて開催しました。

科学委員会開催にあたり、事務局を代表して九州地方環境事務所杉田高行統括自然保護企画官から挨拶が行われました。続いて、荒木耕治屋久島町長からは、口永良部島における噴火対応等について説明され、関係行政機関等に対する支援協力に対しお礼が述べられるとともに、屋久島町も遺産地域の管理主体として、地元意見等との調整を図りながら更に積極的に取組ん



屋久島世界遺産地域科学委員会の様子

でいくので、科学的観点から助言をお願いしたいとの挨拶がありました。その後、吉田茂二郎科学委員会副委員長を座長に選出し議事に入りました。

今回の科学委員会では、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況報告について②2015年度モニタリング調査について③ヤクシカ・ワーキンググループについて④山岳部における利用の検討状況について、行政機関等からの報告後、論議が行われました。

地域管理計画の実施状況に関しては、モニタリング調査はこれまで世界遺産に登録され20年以上経っていることから、その一連の流れを報告していただきたいとの助言をいただきました。2015年度モニタリング調査予定については、各機関から報告したそれぞれのモニタリング調査手法等について、助言をいただきました。



ヤクシカ・ワーキンググループの様子

また、前日に開催されたヤクシカワーキング等合同会議の報告が行われ、生息数の調査方法・捕獲手法等について助言がなされ、特に、推定生息数の確定や管理目標を早期に関係機関で決定し、捕獲数の検証ができるように対応するよう意見が出されました。

山岳部における利用の検討で、「縄文杉周辺の再整備」においては、2015年度冬期に北デツキの代替アツキを設置、南側デツキについては現地検討会や意見交換会等による地域関係者の意見を聴取したうえで、位置、規模、歩道部ルートについて方向性を決定する旨が報告されました。

その他として、屋久島森林管理署等から、国有林内降灰調査の実施報告、降灰による島内国有林の植生影響調査について報告されました。

また、屋久島町から口永良部島の噴火に伴う状況説明及び屋久島・口永良部島ユネスコエコパークの拡張申請に向けた進捗

状況についての報告と要注意外来生物シロノセンダングサの繁殖・蔓延状況、その対策等について、国、県とも連携して取り組む旨の説明がありました。

最後に吉永俊郎計画保全部長から「大変貴重なご意見やご提案を踏まえて、関係者間で情報を共有するとともに、問題意識をもって、世界遺産屋久島の自然環境を保全管理していくため、引き続き委員の皆様方のご意見をいただきたい。」との閉会の挨拶で委員会を終了しました。

今後も当委員会での助言を得ながら屋久島世界遺産地域の貴重な自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくこととされています。

(担当：計画課・保全課)

## 遊々の森協定を締結

【北薩森林管理署】当署は、伊佐市「大口元気こころ館」において、NPO法人しいのきの森小床（二之形一秋理事長）との間で、国有林のフィールドを利用し森林環境教育活動等に取り組み、遊々の森「しいのきの森小床」（林齢20～50年生の広葉樹林約4・5ha）の協定を、NPO法人や伊佐市副市長並びに報道関係者ら約20人が出席する中、締結しました。

調印式において、佐賀賢二北



調印式を終えた3者

薩森林管理署長は「林野庁九州森林管理局が進める協定締結による国民参加の森林づくりに係る遊々の森は、森林教室や体験林業などを通じた森林環境教育活動であり、相互の連携・協力のもと森林づくり活動の円滑な実施に努めて参りたい」と挨拶しました。

二之形一秋NPO法人理事長は、今後、国有林と隣接した民有林に「癒やしと学びの場」（約2ha）を設置し国有林と民有林が連携した体験活動・交流の場として「森林の多面的機能を活かした体験活動などのモデルとなるよう、NPOと署、更には地域と連携して取り組んで参りたい」と挨拶しました。

また、地元を代表し出席された時任良倫伊佐市副市長は「伊佐市としても広報誌等を利用して地域にPRしていきたい」と祝辞を述べ、調印式を終えました。



## 虹の松原の保護に向けて

【佐賀森林管理署】虹の松原保護対策協議会の専門部会である「レクリエーションの森部会」が唐津市で開かれました。

会議では、総会で承認された2015年度の事業計画の具体の実施運営や部会の組織等の見直しなどが審議され、最後に、平成26年度からレク森部会の中で取り組みを始めた「虹の松原の安全点検」について当署から提起し、本年度も10月4日の「虹の松原クリーン大作戦」にあわせて実施することが了承され、閉会しました。



レク森部会の様子

## 採材検討会を開催

【熊本森林管理署】当署では、保育間伐（活用型）実行箇所において、請負事業体、システム販売協定相手方、木材市場関係者及び当署関係職員など約30人が参加して採材検討会を開きました。これは、山元における採材技術の向上を図るため開いたもので、参加者をグループ分けし、それぞれ供試木（全幹材）の採材を行い、その結果につい



ナンテンは庭先で容易に見ることが出来ます。昔から株が広がらず、葉が3回3出葉と細かく、赤い実がたわわになることから庭園樹として植えられてきました。

ナンテンの葉には防腐効果があることが知られ、おせち料理や赤飯、魚料理に添えられることは周知の通りです。「ナンテン」という語感が「難（ナン）を転（テン）じる」に通じるところから縁起木としても親しまれ、ナンテン箸、ナンテンのど飴として身近です。

秋から冬にかけて、多数の球

て市場関係者から最近の消費者ニーズなどを踏まえたアドバイスなどを受けました。



供試木の採材を行っている様子

その後、実際に玉切りを行い、検証や意見交換を行いました。参加者からは活発な意見や質問などが多く出され、川下から川上までの認識を同じくすることができた有意義な検討会となりました。



9月1日付森林管理局长長発令  
長崎地域技術官  
下村龍也（長崎署）  
（担当：総務課）

## 95 ナンテン（メギ科）

くに植えられています。



形の液果が赤色に輝くように熟すことから、冬に切り花が少なかった時代には、お正月花として飾られていました。今でも門松の装飾として加えられることもあります。果実には種子が2個入っています。果実はヒヨドリなどの小鳥に食べられます。赤く熟すのは、種子を遠くへ運んで貰うために、鳥たちに分かりやすくし、樹木自身が食べられる工夫をしているのです。

ナンテンの名前は、中国の漢名の「南天竹」、「南天燭（しよく）」からの転化した名前です。樹木園には受付の横、トイレ近



8月は、口永良部島の噴火活動が落ち着いてきたと思っていれば、桜島の火山性地震の多発による噴火警戒レベルの引き上げや、台風15号の直撃など、自然の驚異をまさまさと見せつけられる事となりました▼災害への対応は、日頃からの備えが重要ということもあり、局では9月1日に防災訓練が行われました▼訓練では熊本市で震度6強の地震が発生したとの想定で、緊急自然災害対策本部の設置や、参集要員の招集など、実践的な対応行動の訓練がありました▼また、訓練の一環として「災害用伝言ダイヤル（171）」の利用方法の説明と、実際に体験する訓練もあり、自身も含め、家族や知人の安否確認に有効な手段として、利用方法を知っておくことも必要だと感じました▼最後になりましたが、9月期は「ゼロ災月間」になっています▼今年度は公務災害が累計で3件と、昨年度の総件数2件をすでに上回っています▼自然災害への備えとともに、業務中の安全への備えもよろしく願います。

(し)